

山田町復興計画策定に向けての意見<全文>

番号	項目	意見
1	復興計画	<p>1. 地場産業について 2. 人口増についての考え方(方法・手段等) 3. 公共事業等の導入等 4. 商工業のあり方等 5. その他多数</p> <p>復興などに関しての構想はありますが・・・聞いてもらえる場がありません。</p> <p>【希望】 完全に山田町が再生するまで町長はじめ、町職員(現スタッフ)の方に何十年かかろうが頑張っで欲しいです。</p>
2	復興計画策定	<p>1. 住民の意見は、大切であるが防災やまちづくりについては専門家の意見を取り入れるか、アドバイザーを迎え入れるべきである。 被災地域の買い上げを求めるとともに公営団地・民間アパートの建設を推進する。そのためには、アパートの所有者への補助金も検討すべきではないか？</p> <p>2. 雇用を促進する。従来の短期的雇用から常用雇用への転換できる方法を考える。そのためには、事業主への金銭的な援助が必要である。(社会保険・雇用保険の福利厚生費用が大き過ぎる。)</p> <p>3. 漁業については、短期的に収入に結び付く“ワカメ”の養殖への転換を考えるべきである。“ワカメ”以外にすぐ収入に結び付く水産物の養殖種を紹介してほしい。(一年間以内で販売できるものは何か？)</p>
3	インフラ整備・ライフラインの整備	<p>今後の町づくりとして、重要なのはインフラ整備・ライフラインの整備だと思われます。インフラ整備とライフラインが整わないと、安心して町民が生活できないからです。この山田町の震災で被害を大きくしたのが、火事だと言われております。</p> <p>その火事の原因の一つが、LPGです。このLPGを安全に使いこなせた町民は、何人いたのでしょうか？LPG事業者が、町民に対して安全教育を周知していたのでしょうか？もしガスが、LPGじゃなく都市ガスだったら被害が最小限にとどまっていた、かも知れないです。</p> <p>これを機に太陽光発電はじめ、風力発電所の誘致と通信設備・都市ガスを整備して、安全にエネルギーを使いこなして行けば、山田町が震災に強いエコタウンとして再生できるのではないのでしょうか。震災に強いエコタウンとそして企業を誘致していけば、人口増加と税収UPにつながると思います。</p> <p>今のままだと山田町は、住みづらい町になり町民はほかの町や市に移住してしまうじゃないのかと思われます。そしたら山田町は破綻します。今いちど真剣に考え行動しましょう。</p> <p>山田町の底力を全国・世界に見せつけましょ。</p>

番号	項目	意見
4	交通網	<p>私は毎朝宮古からバス通勤している者です。</p> <p>はっきりいってバスの使い勝手悪すぎます。毎朝 5 時 40 分に宮古を發ち、袴田で 30 分以上乗り換えに待たされます。帰りは大沢まで 2 時間近く歩く事もざらです。その間の街中を通るバス(浜川目とか関口神社とか)を見ても実績0名のバスばかり目立ちます。私の乗る田子の木バスも私が 30 分待たず細浦から歩いてしまえば実績0名になるでしょう。中学生のためか漁師さんが強いのか大浦のみ乗り継ぎは悪くなく毎日実績のあるバスのようです。</p> <p>震災直前の国鉄を見ても、朝一の田子の木は乗り継ぎにマッチしてはいるものの、帰りは全く駄目で、あれではバス会社を馬鹿にしたくもなります。ガソリンの無駄です。運転手さんたちの話聴いても「昔から変わらない」ダイヤだとかで俺らが何言っても「無理」だとか。やる気を感じさせません。山田の発展の妨げ(人の往来防止)が県北山田の存在なのでは?とも思いたくなります。</p> <p>しかも県北にはお客様からの意見コーナーがありません。山田営業所の位置もいまいちよくわかりません。船越郵便局のあたりまで歩いたことありますが、よく分ならず。</p> <p>なんであんなに乗り継ぎの悪いバスしかないのですか? 県北の宮古と山田は仲悪いのでしょうか? それともダイヤグラム組める人が山田営業所にいないだけでしょうか?</p> <p>提案します。細浦インディ跡から山田高へ上る道があります。高架下で山田中へ右に下がる分岐があります。あそこに「山田高下住宅」なるバス停を作られたらいかがでしょうか? 織笠から来て 45 号線から山田高下住宅を経由させ山中を抜け、45 号線に戻る形で運行させたら又はその逆で郵便局から山田中を経由させ山田高下住宅を通り 45 号線に戻したらバス本来のあり方(車無い人の足)になるのかな? と思います。山田高前のバス停があるのにみんな船越の学生は細浦から豊間根や浜川目や関口の学生は山田郵便局から永遠に歩いて上ってくるのを見ていると山田高前のバス停を蹴飛ばしたくもなります。またただらだと浜川目までの長距離を実績0名のバスを走らせるのではなく、本線と乗り継ぎよく、短距離でバスを往復させるがよいかと思います。浜川目～大沢川向間、関口神社～山田駅前間、田子の木～山田駅前間(田子の木は道狭いから馬指野口の膨らみで戻ってきてもいいかもしれませんよ? 一つ手前の猿神と2つ手前の館神が仮設になりますから。)</p> <p>大浦～道の駅～船越駅前間、船越駅前～田の浜間を。そして震災したいまこそ、45 号線バスをブナ峠の診療所に経由させるのであれば、四十八坂を延長し、青少年の家へ。船越駅前～青少年の家間として朝と昼と日没にあつたら病に伏した子供達は凄く助かるはずです。</p> <p>以上、ひと月以上バスで通勤してみて思った事です。良きダイヤグラム案が出来たら山田復興の足掛かりを応援するべく送りますね。多分山田営業所見つけても何言っても駄目らしいですから……</p> <p>それでは</p>

番号	項目	意見
5	人材不足と指導不足	<p>今回の大震災は、未曾有の災害と言いながら行政の対応(行動)にはあきれられるばかりで山田町も同様です。何度も職員には被災者の立場になって仕事をしてくださいと何度も言っておりますが、職員には失落するばかりです。</p> <p>職員は上から目線に対応するばかりで被災者への誠意、思いやりは全く感じられません。今からでもまだ遅くはありませんよ！！心を切り替えて被災者の立場になったの対応と気配りをお願い致します。</p> <p>役場の休日に応援に来て下さってるボランティアの皆様に役場のトイレ掃除をさせるような山田町の指導には町民として失落するばかりです。</p> <p>※税金で生活してる職員は、一般の方々とは格差があるから痛みなんて分からないんでしょう。山田町独自で出来ることは山ほどあるはずですよ。山田町への義援金は町民には開示しないの?????</p> <p>※町長・議長クラスの方々には、町民の声とアンケートは全員が耳を傾けてすべてのアンケートに目を通してください！！</p> <p>※震災直後への反省なくして復興の絵図は町民には伝わりませんよ！！</p>
6	復興計画、防災計画	<p>確実な安全確保のため今回浸水地域は住居の建設は制限したほうが良いと思う。浸水地域各所の目印などを設置で後世へ伝える。</p> <p>公共施設、店舗などには避難場所、経路などの掲示を義務付ける。職員には避難方法をマニュアル化。</p> <p>漁業関係者、消防団員等の安全確保のため避難ビルの建設。津波警報の際ただちに救命胴衣を着用できるよう配備する。</p> <p>山田駅の時計を残していただき感謝しております。津波資料館のようなものをつくり、時計や写真、映像などで津波の悲惨さを忘れないよう伝えていける施設を造ってほしいと切望しております。</p> <p>後世の人々が同じ悲しみを繰り返さないように！！</p>
7	交通	<p>私は被災していませんが、船越へは織笠大橋、大沢へは宝来橋だけ、遠回りすれば行けるかはわかりませんが、先日船越の郵便局へ行かなくてはならなくて行ったのですが、正午まで待って交通量が少なくなったとき渡りましたが(自転車で)、自転車を押してとても怖かったです。</p> <p>大沢へも行こうと思ったのですが、やはり、行けませんでした。橋がもう一つずつあればありがたいのですが、贅沢でしょうか。優先順位は低いでしょうか？</p>

番号	項目	意見
8		<p>このような時なので今年のお盆は、各々の家で拝み(空白)したら良いのでは。初盆の方は別で。</p> <p>政治が言えることではないかもしれませんが</p> <p>みなさん全体的に(?)大変だと思うのですが、今までどおりにはいかないと一人で思っています。</p>
9	交通網整備、風力発電	<p>現在は、神奈川に住んでいますが、実家は織笠に在りました。(※津波で焼失しました)地域外の目線で、予算は後回しにして(何も考えられなくなるので。)、防災も大変重要ですが、復興後の未来に向けて、山田町の存続を目指した意見を述べます。</p> <p>毎年帰省する度、感じますが山田町は時間的に遠く感じます。高速を降りてから時間がかかります。震災後は、紫波町のいとこ宅から戻ろうとすると、山田に2時間ぐらいしか滞在できません。夜遅くならないうちに内に紫波に戻ろうとすると、山田に2時間ぐらいしか滞在できません。</p> <p>岩手内陸から、山田に向かう場合、宮古か釜石を経由しなければいけません、ほかの港町に比べて飛びぬけた特色を感じないです。観光名所は、宮古、釜石に多いので、海だけでは人が集まりません。</p> <p>勉強不足ですが、山田の主産業は漁業と思っています、漁業者は平均年齢が高く無いですか？山田には、海もありますが、山の面積が圧倒的に広いです、山はどのように活用されていますか？インフラ関係は宮古市に依存していますよね？</p> <p>以上を踏まえると、盛岡、花巻から2時間以内にアクセス可能にすること。宮古、釜石を経由せずに山田に来られる道を作ること。漁業以外にも、共存できる(環境を壊さない)産業が必要。</p> <p>インフラ周辺に依存せず、逆に周辺に供給して、収入する方法はないか？</p> <p>大胆な案ですが、沿岸地域は、風が強いので、大規模な風力発電所(+太陽光)を誘致し山間部を開拓する。</p> <p>宮古市と遠野市を結ぶ、国道340号から分岐して山間部を通り山田に至る道路を建設する。新設した山間部道路の中間に、発電所を建設する。(防災的にも、海側を通らずに山田に行ける道が必要だが、財源捻出には理由も必要)</p> <p>自然利用の発電所と海を関連させ、海と風の的的な自然と調和したクリーンなイメージの町を作る。電力供給が十分なら、町内の交通はすべて電気自動車にしても良いかもしれない。町外側に大規模な駐車場をつくり、町会社には電気自動車に乗り換えてもらうなども。</p> <p>岩手県は、幸い原発がないので、官庁と自動車&電気産業を連携させ、復興と次世代日本のモデルケースとして、誘致と財源確保できないかな～。</p>

番号	項目	意見
10	交通網、居住地	<p>意見内容についてははじめに、HP から広報見ようとしたが表示されませんでした。携帯からは見れない？</p> <p>1. 今の地区を結んでその間を人数は多くなくてもいいのでバス、車を走らせる。意図は移動手段がない人の足、直ぐに再開した病院、商店等の経営維持のため！</p> <p>2. 家の場所、集落の場所は、北浜、柳沢の人は、関谷もしくは関口に空いている家や土地を活用する。中央町、織笠地区は長崎や中学校近くの家や土地を活用。山を切り出し、盛り土に使われる費用を他に活用する。参考に、船、養殖関連投資、漁港などの復興にも回せる！</p> <p>3. 仕事の確保、漁業の再開に向けて、まずは養殖よりもすぐ利益が出る収穫を優先的にする、ある程度先が見えたら養殖の復活。 内陸部の市町村に夏休み、秋の収穫に人手があるものに対して、町民希望者で手を貸す、少量でもいいので収益を得て、普通の生活が早急にできるようにする！</p> <p>4. 花巻、釜石間の高速道路の早期完成。利便性、発展には不可欠！</p> <p>5. 岩手県沿岸の商工会を一つに、もしくは、各市町村代表者の会議が出来るようにする。県に復興に必要な要望するとき、効率的、情報の交換をすることでさらに早期復興につながる可能性があがると考える！</p> <p>6. 津波被害に遭い開いた土地の利用は、発展の為に使うようにする。発展する材料は、すみませんが今のところ案なしです。今後の課題になります！</p> <p>※山田に住んでないので、上記の意見参考になるかわかりませんが、最低事としてやることの順位付けをして行動してくれることを願います。</p>

番号	項目	意見
11	町づくり基本理念(スローガン)	<p>町長殿には震災発生から復旧激務の中を自ら被災者でありながら不眠不休で広く町民のために活動していただきまして感謝しております。他市町村に比べ行政に精通した町長であればこそ各行政方面との調整も可能だったことが多々あったことと思います。深く感謝します。</p> <p>このたびは復興計画策定に向けてお願いしたいことがあります。稚拙で言葉足らずで整った文章ではありませんが私からの趣旨が町長へ伝わることができたならばありがたいです。</p> <p>復興計画及びその実行計画を策定するにあたり、町づくりの復興理念となる山田町として将来の町はこうあってほしい、このような街にしたいという思いを普遍的な言葉の理念として掲げることが必要だと思えます。</p> <p>実行計画では局所的で震災色が強いです。本来、震災以前から将来どのような街であってほしいか、将来の町の姿のビジョンを町長殿はお持ちだったと思えます。</p> <p>普遍的に伝えるまちづくりのメッセージを発信することは、今の住民だけではなく、まだ見ぬこれから未来の住民へ向けた歴史的なメッセージでもあります。</p> <p>理念があればどのような思いを持ってまちづくりをしたかを、まだ見ぬ子孫たちへ、新たに山田町へ住みたくて移住して来られる将来の方々へ伝えることができます。そのような歴史的な責任が町長にはあると思えます。</p> <p>歴代の町長の中でも行政の長として名実ともに実力者であり、実務経験豊富な町長殿には是非とも首長としまして理念(スローガン)を掲げて頂きたいです。理念のもとに町民の気持ちが一つになることと信じております。</p> <p>すでに町長殿はお考えのことであると思えます。恐縮ではございますがぜひとも実現をさせていただきたくお願いしている次第です。</p> <p>まちづくり復興理念(スローガン)につきまして具体的にどのようなことを私がお伝えしたかったが恐縮ではございますが、次のページに書かせて頂きます。</p> <p>(例)まちづくり復興理念(スローガン)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) いまいる自然を守る (2) なくした自然を再生する (3) 次の世代につながる町づくりは生業(なりわい)として何を次の世代に担わせるかを定める (4) 復興計画協議会をつくる (5) 事業の検証・評価を行う (6) 復興計画支援基金をつくる (7) 一人からみんなへ 親から子へ伝える (8) 積極的に取り組んだ町民を表彰する (9) できることから すぐはじめる (10) 現在そして未来の町の理想のイメージを住民みんなで共有する

番号	項目	意見
12	継続的な町づくり復興計画	<p>【住民と行政職員の距離間について実例】</p> <p>7月19日に山田町中央センターにて岩手県復興局の担当行政官から岩手県復興計画(案)についてご説明がありました。</p> <p>参加しました住民の方々から悲痛の叫びや赤裸々な声があがりましたことは記憶に新しいです。</p> <p>県行政官と町民とのやりとりを経て、県行政官が認識を新たにいただいた事が2つありました。</p> <p>①一人一人に寄り添う事が必要</p> <p>②自身が被災者になって考えて頂くようお願い</p> <p>説明会の印象としましては、長年実務を遂行し法律に長けていらっしゃる職員の姿、言葉が形式的であるがために住民の悲痛で赤裸々な状況との距離感を強く感じます。行政とは、[法律などの法規に基づいて行われる政務]です。職員はそれを遂行するの方々です。</p> <p>行政官職員の方も人間ですから心では分かっておられるとは思いますが仕事に置き換えてしまうと規制に従うのが主務となり言動がどうしても形式的になりがちです。長年の立場上そのようにならなくてはならないものなのかと感じました。(職務に忠実)</p> <p>【山田町行政の復興計画策定スケジュールについて】</p> <p>山田町ホームページに掲載の復興計画策定のスケジュールにおける住民意見を聴取する期間は以下の通り掲載されております。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 住民懇談会等(10月上旬)・・・(1週間程度) * 地区別意見・提案募集(7月-8月末)・・・(文章で聴取) * アンケート調査(10月上旬)・・・(文章で聴取) <p>ビジョン策定フェーズにおいては7月から8月の期間に文章による住民意見の募集があります。</p> <p>計画策定フェーズにおいては10月上旬の1週間程度住民懇談会が予定されております。</p> <p>他職員の方々も初めて認識したと正直で誠実な気持ちが見えた瞬間がありました。何を伝えたいかと言いますと復興計画及び実行計画が行政及び復興の方々の手にゆだねられっぱなしではないでしょうか？スケジュールを見ただけで申し訳ないのですが、そのような違和感が見て取れます。</p> <p>多くの住民が現実の生活、生きる事をどうすればよいのかの瀬戸際でありますから、代表の方へゆだね処置をスムーズに進め予算取り付け期間に間に合わせ実行計画へ移すことが主眼となったスケジュールで様々なことを熟考された結果のスケジュールですからその内容への不満や批判はありません。ただ、山田町民の皆様はそれで良いのでしょうか？確かに急務ですぐ予算を取り早く復興しなければならない案件もあります。急ぐものはありますがそれはそれで進めればよくそういった中でも沿岸出身の県職員の方の発言は山田住民の気持ちを察して頂いており良い印象を受けました。(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
12	継続的な町づくり復興計画	<p>(前ページから)</p> <p>赤裸々で痛切な問題を抱えた町民の方に面と向かってそのような実態があるという現実を他職員の方々も初めて認識したと正直な気持ちが見えた瞬間がありました。</p> <p>住民集会の話以外にも同様な悩みを持ち画一で黄な法律では対処しきれていない実態があります。</p> <p>それらを考えて県職員の方は個別相談会を山田町で開きましようと言って頂きました。窓口となる担当者を山田町役場に置くことを即断して頂きました。そして翌日の防災無線にて個別相談会開催の告知がありました。素早く対応して頂きまして驚きました。県職員・山田町職員の関係者の皆様には感謝いたします。</p> <p>一歩でも解決するにはどうしたらよいか。</p> <p>行政職員も住民も互いに話し合いの場を設けて相談や懇談してお互いに考えることが大切であることを痛感しました。</p>
13	避難道路	<p>避難道路は山側に真っ直ぐ、広い道路にしてほしい。</p> <p>国道45号線を嵩上げて片側2車線以上にし、避難道路、防潮堤としての機能を付加してほしい。</p>
14	巡回バスなど	<p>仮設受託の近くにバスの停留所を設けてほしい。</p> <p>巡回バスなどを利用し、病院や商店街、スーパー付近、役場などに行けて用事を足せるようにしたい。バスはワンコインなど経費がかからないと嬉しい。宮古市では町民グラウンドで買い物をした人に対して購入商品の配達を行っており、同じようなサービスを行ってほしい。</p> <p>商店街の方々やバス会社との連携をお願いします。</p>
15	高台移転	<p>私の被災時の住所は中央町で、家は全壊した。二度とこのような被害にあわないように高台移転を希望している。</p> <p>但し、自分の年齢を考えると高台であればどこでも良いというわけにいかない。買い物、通院などに便利な場所が必須の条件となる。そのような高台拓地が見つからなければ、町外移転も考えなければならない。今後の住居を検討するため、高台宅地の具体的な候補地を早期に提示して欲しい。</p> <p>また希望条件に合致する宅地が整備されたとしても、被災地の買い上げが実現しないと高台の宅地を買うことが出来ない。高台移転は被災地の買い上げが前提となる。被災地の買い上げを実現するため、あらゆる手段を講ずることが必要である。</p>
16	高台の造成	<p>応急仮設住宅でも、山を削ってできたところもありますが、高齢者には坂道の上り下りが大変です。高台移転場所の造成を行う場合には、山田高校のグラウンドぐらいの広く平らにして頂きたいです。</p>

番号	項目	意見
17	鉄道より路線バスの充実	<p>色々と計画案が出ているようですが、山田町、そして日本の将来に負担をかけるような、無駄なお金は使わないようにお願いしたいです。私は鉄道の復旧に反対です。</p> <p>JR、三陸鉄道の復旧が叫ばれていますが、現実的に赤字路線を復旧させる事をおかしいとは思わないのでしょうか。崩落した鉄橋、流失した線路を復旧させるために、いくらお金を使うのでしょうか。JRにはそんなキャッシュフローはないはずで。ましてや赤字企業の三陸鉄道には返済能力すらありません。現実的に借金をしなければ、復旧など絵に描いた餅です。</p> <p>では、復旧させるための借金、運営するための借金は誰が返済するのでしょうか。確実に利用することのない人にも負担がかかる事になります。『鉄道復旧は国の負担が9割』などとニュースで言っていますが、『国』とは『国民』、即ち私達です。『赤字企業救済の為、国民の負担が9割』と言ったら、だれが納得するのでしょうか。実際に復旧したとして、今まで使わなかった人が使うようになると思われますか？利用者が増えなければ、赤字の解消はあり得ません。</p> <p>今回の震災で、日本人は東北太平洋岸は危険な地域であると認識し田と思います。現実的に観光客が増えるのは、震災バブルの今だけではないでしょうか。時期が過ぎれば、観光業も大打撃を受けた地域に足を踏み入れる人は確実に減少します。観光立国など夢のまた夢です。客観的に見てそう感じています。</p> <p>以上を鑑み、私は鉄道に代わる路線バスの整備を進めるべきだと考えます。借金返済の目処など立つはずもない、利用者の少ない鉄道を復旧させるよりも、路線バス拡充の方がインフラに対する投資も最小限で済みます。</p> <p>利用者に対する細かなサービス(停留所数、運行本数等)も、路線バスの方がよりよい対応ができると思います。渋滞による問題が懸念されるのであれば、渋滞のない町・道路作りを進めるべきです。明らかに鉄道復旧よりも投資は最小限で済みます。</p> <p>元の線路の使える部分を舗装し、路線バス専用の道路にしてもいいと思います。確かに、鉄道業に従事している方も少なくないですが、『その方々の生活を守る為に』という論理が存在するならば、将来の山田町、日本に生きる人たちが大きな負担を背負うことを良しとする社会通念に反する論理であると思います。</p> <p>今考えるべきは『元に戻す』ではなく、『今まで以上にする』です。本当に地域、日本の為になる復興計画を望みます。</p>

番号	項目	意見
18	近隣市町村との連携	<p>津波で甚大な被害を受けた市町村は、単独で復興計画を策定・実施するのではなく、少なくとも共通の課題(たとえば各市町村にまたがる堤防の整備、津波につかった農地の除塩作業、商品流通経路の再建等々)については近隣市町村が復興組合(マンションの管理組合みたいなものでもご想像ください)を結成して、共同して計画を練って実施するのが効果的かつ効率的だと、ご提案申し上げたいのです。こうした共同作業を行う利点はほかにも、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地地元の声を大きくできる。 ・複数市町村共通の事務局を立ち上げれば、1自治体独自で立ち上げるよりも多くの人材を集めることができる。 ・近隣で共同歩調を取ることで、住民が地元自治体の措置を他の自治体のものと比べた際に不公平感を抱く可能性が少なくなる。(これ、行政担当者として大事だと思いませんか?) <p>組織の名前や形態は、組合でなくて合同委員会とかいろいろ考えられると思いますし、突飛な案かもしれませんが、組合メンバーを1つの県内に限定せず複数県にまたがった組合を結成することも、共通の目標を達成するうえで効果的かもしれません。</p> <p>復興全体の計画策定を中央省庁に任せておくと、中央省庁は現地の利益に直接責任を負いませんので、被災地の救済を第一に考えない計画になってしまいます。地元住民の声を最もよく聞き取れるのは、県ではなく市町村です。そのためにも、市町村が共同して事に当たるのが、被災した方々の利益のためには必要ではないでしょうか。既にこのようなことを考えていらっしゃる市町村もおありかもしれませんが、そうした市町村におかれましては是非とも早くことを進めてください。でないと中央省庁が先に制度を作ってしまう。また、ご検討されたけど現実の市町村の枠を超えて行政を行うのは困難、あるいはこうした連合が中央省庁の不興を買い却って地元の復興の妨げになりかねない、等々のご判断から断念された市町村がおありかも知れません。この場合は、千年に一度ともいわれる大災害を目の当たりにして、従来と異なる制度を作って事にあたらうとの政治的な勇気と、地元住民のために復興を進めようとの使命感の問題でしょう。中には、元々近隣市町村は信用できないために連合などもってのほか、という市町村もあるかもしれない。その場合は、是非とも地元住民を説得してでも、ご一考ください。</p>

番号	項目	意見
19	道路交通網の整備と居住地	<p>今回の震災により道路の重要性がいかに高いものか町内外共に理解できたことと思う。物資の輸送、医療の迅速性・確実性、情報の集約・拡散、人と人とのつながり、また避難路として道路が果たす役割は計り知れないものであるということは周知の事実であると考え。道路のあるところに人が集い、家が建てられ、店が開かれ、街ができる。「費用対効果」の言葉をタブーとするくらいの覚悟と超法規的な手続きと実行力を持って従来までの道路政策を一転させるべきではないのか。遠ければ遠いほど町中心部へ1分1秒でも短時間で行けるような優しい行政であって欲しいものである。いかに基本的事項と具体案について記述する。</p> <p>【道路交通網の基本的事項】</p> <p>1) 三陸道と横断道の早期完成の促進を図ることは当然至極のことである。山田町内においては三陸道へ阿部組プラントから出入りし多くの人や車両が往来できたという事実がある。また釜石の鶴住居、両石地区が数日前に開通したばかりの三陸道に並々ならぬ恩恵を受けたことは記憶に新しい事実である。また、八戸、久慈、宮古、釜石、大船渡、陸前高田、気仙沼、石巻、仙台と繋がることで必要な物資や人の補給などが可能となりいろんな面で連携できる。</p> <p>2) 町内においては湾岸地域だけの連携強化に限らず全町内集落との連携を強化する。</p> <p>3) 国道45号だけに頼ることなく現状峽溢道路の拡幅(歩道込12mぐらい)及び線形の見直しをする。</p> <p>4) 湾岸については新たに造るまたは改良をする道路の標高についても見直しをする。</p> <p>5) 湾岸集落への進入路は海沿いを避け、山側からとする。</p> <p>【道路交通網の具体案】</p> <p>ア) 田の浜地区への道路は現在の路線以外のルートを設け新設する。新開地から減船越小学校の東部山腹を通る路線が最適かと考える。浦の浜から長林へは現陸橋を利用し同程度の標高の</p> <p>イ) 大浦地区への道路はトンネルにより浦の浜地区と最短距離で結ぶ。大浦地区側のトンネルへのアクセス道路は現墓地付近とする。</p> <p>ウ) 前述した道路を新設することによりその道路沿いに宅地などが容易に造成されることが考えられることから浦の浜地区、前須賀地区、田の浜地区、大浦地区の方々の新しい居住地になるものと思われる。</p> <p>エ) 山之内地区、船越地区については現状のままで良いと思われるが通り抜けできる道路の拡幅と嵩上げは必要である。(山之内地区の旧国道45号)</p> <p>オ) 大沢地区は国道45号に頼ることなく大沢小学校方面から山谷地区方面を迂回し、国道45号を横断するような形で関谷、関口地区にアクセスできる道路を新設する。</p> <p>カ) また北側の山腹に東西道路を新設し、浜川目へも津波の影響を受けることなく往来可能とする。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
19	道路交通網の整備と居住地	<p>(前ページから)</p> <p>キ) 織笠については猿神から山田南小学校までの道路を大規模に改良する。また、山田高校付近からも北方向へ道路を新設し前述した道路にアクセス可能とする。</p> <p>ク) 跡浜地区～織笠小学校までの道路は拡幅する。また跡浜からコミュニティーセンターまでの道路を新設する。</p> <p>ケ) 役場周辺の道路は東西南北とも広げるか、もしくは三陸道及び国道45号からのアクセスが容易であり勝田課題であることを前提に選定し移転する。残念なことに今回の津波は役場周辺まで押し寄せ孤立化したことを考えると移転し、東西南北は放射状に延びる道路を新設するべきだと考える。また、ない地区へのアクセスが容易に可能な場所ということも考慮すべきであろう。</p> <p>コ) 馬指野、田子の木地区と関谷、関口地区への既存道路も拡幅、改良工事を実施し一般車両、緊急車両共容易かつ安全に走行できるようにする。</p> <p>サ) 前述したとおり道路なくして居住地なしのごとく、道路を改良、新設することにより新しい宅地の開発も容易となる。標高の高い道路をつくることにより高台に居住空間が現れることとなる。また、道路を施設、改良するときに発生する土砂や削り取ったヤードも宅地として大いに利用可能となる。</p> <p>【余談】</p> <p>盛岡に出てきて30年近い。こんな道路をなぜ?!と思った路線が3ヶ所ある。</p> <p>1つが矢巾の南昌山の懐にトンネルをぶち抜いて新設した矢巾～雫石の農免道路。大浦海道の方が交通量が多いのでは?と思う時がある。</p> <p>2つ目が国道455号の上米内から国道と別れて北へ向かい、旧玉山村の釘の平→日戸→山谷川目→城内を通り芋田の国道4号までの農免道路。ここは明らかに大浦海道よりも交通量は少ない。</p> <p>3つ目が盛岡北松園～クリーンセンターまでの盛岡市道。</p> <p>農林水産省とか国土交通省とかの違いはあるだろうが、これらの事業費を考えたら提案した道路網は訳なくできそうな気配すらするので参考までに町内の方々には是非ともその目で確認していただきたい。</p>

番号	項目	意見
20	防潮堤の整備	<p>防潮堤は我々の生命、財産を守ってくれるものと信じていたが、岩手県の防潮堤の総延長の約64%が損壊したとのことである。破損、倒壊せずに防潮堤の上から乗り越えた水だけであつたら津波の被害はどうであつたか？これほどではなかつたのは確かであろう。</p> <p>防潮堤の設計条件はどうだったのか？</p> <p>新聞報道によると波高は考慮に入れても、波の破壊力(運動エネルギー)はほとんど考慮しないで造るとのことであるが、とても信じられない。なぜ、倒壊したのか？</p> <p>原因究明をしっかりと公表すべきである。その上で倒れない防潮堤の設計、建設技術を確立して、津波で倒れない防潮堤を整備すべきである。(防潮堤は一定の効果を果たしたとの評価もあるようであるが、それでは困ると言わざるを得ない。)</p>
	防潮堤と国道45号線	<p>山田地区の場合、防潮堤の修復とともに国道45号線を嵩上げて防潮堤に抱かせる。</p> <p>※防潮堤を10mとか織笠大橋の高さにという意見もありますが、同規模の津波が来た場合、今回防潮堤の中に流れ込んだ水量を見ると、いくら高くしても防ぎきれものではないと思います。それよりは、できる範囲で被害を最小限に抑える方が現実的と考えます。</p> <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波による決壊の危険性を大幅に抑制できる ・通行車両、観光バスなどから山田湾の景観が望め観光にも繋がる ・今回、津波が堤防を越えようとしているのさえ気づかず犠牲になった方もいるのではないか
21	第二堤防	<p>境田踏切付近～長崎踏切～八幡町～後楽町へ、それほど高くなくても良いと思うが嵩上げし第二堤防とする。</p> <p>※コンクリートむき出しではなく、景観を考慮したデザインに。</p> <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内側を居住可能区域にして町を形成して行く。
	内陸部への連絡道	<p>町内から106号や遠野方面につなげる道路の整備。例えば、豊間根・福士地区～腹帯、或いは織笠～金沢経由で遠野または川井等</p> <p>※現在の経路と移動時間に差がなかったとしても、復興、発展していく中では最も重要であり、あらゆる面で良い結果をもたらすと思います。</p> <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸市町村と取引のある企業にとっては、山田から宮古・釜石また遠野へも移動が可能になって、現在よりは動きやすくなり、実現すれば経済活動を進める上では魅力のある位置関係ではないかと思う。 ・山田にとっても、宮古・釜石を経由せずに内陸部への移動が可能になり、双方にとって経済・観光等に大きなメリットが期待できる。 <p>※今まで宮古・釜石に営業所を置いていた会社が山田に移転する可能性は大で沿岸の拠点になり得るのでは？</p> <p>※農林水産・商工業の経済活動の範囲拡大 (次ページへ)</p>

番号	項目	意見
21	赤松・内野線の 拡幅	(前ページから) 今回重要な役割を果たしたと思う。
	総合体育施設 (浸水区域)	屋内、屋外を問わず県大会も開催できる規模の体育施設を検討してください。最近のスポーツ全般に見られるのは、必ずと言って良い程殆どの親が観戦、応援に来ます。土・日開催ともなれば、両親、祖父母、選手の兄弟まで同行するのは珍しくありません。 ※仮設住宅建設によってグラウンドが使用できない子供たちのためにも実現して頂きたい。 【備考】 ・一つの大会で選手の数倍の人が集まり、それに伴い自然に経済活動が発生してくると思います。 ※イベントも開催できる公園も併設 ※前述の内陸との連絡どう実現が必須 ※宿泊施設の充実も必須 ※避難道路確保
	水産業・漁業	漁協と連携して高級魚や貝類の陸上養殖により、海だけに頼らない水産業の町を目指す。 【備考】 ・海のない山間部で養殖技術を確立しているところも有り、安定供給が可能。 ・雇用も創出、観光にも繋がる。
	農産物	屋内生産が可能な農産物の生産 【備考】 ・新たな収入源と安定供給、雇用創出。 ・既存の農家と競合しない産物で、観光にも繋げられる物。
	観光	大島、小島は海水浴場としての利用は難しいので、たとえば太陽光等の備蓄によって夜間ライトアップ。 【備考】 ・いずれ砂浜は復元すると言われていたが、何十年掛かるか分からない。 ・全国でも珍しいこの景観を利用しないのは勿体ないし、時間を過ごせる場所、施設があれば一度ならず見学に来る人は必ずあります。
宿泊施設	新たに建設するのに越したことは無いが、当面は復旧の状況を見ながら、使われなくなった鉄道車両やフェリー等の客船を探し出し活用するのも良いのではないかと。 【備考】 ・今後山田町が復興・発展していく上では必須であると思う。	

(次ページへ)

番号	項目	意見
21	町職員給与	<p>(前ページから)</p> <p>毎年、国家公務員の95. ?%、“国家公務員よりは低い水準である”かの報告がなされているが、国家公務員の給与は、従業員100人以上の大企業を参考にしたもので、町内には大企業のような給与を得ている者はいないと思います。</p> <p>仕事のできる人の給料は高くても構いませんが、明らかに仕事ができない人、来庁者にあいさつしない人(殆んど)、常に上から目線の人も見受けられます。</p> <p>職員の方も経験があると思いますが、客としていった店や職場によっては無愛想で返事さえ碌にしないところもあります。その思いを感じている町民が多いという事、同じものを扱う店が二つ並んでいる時、漢字のよい店とそうでない店どちらを選びますか、コンビニのように何箇所もあれば良いですが役所は一箇所しかないということを感じて下さい。</p> <p>ペコペコしなさいという事では有りません。公務員は特別という意識が根底にあるのではないですか、奥の席から上目づかいで見える人、手の届く距離にいてもあいさつしない人、感じの良いものではありません。近所づきあい同様に常識を持って普通にすれば良いと思います。</p> <p>職員それぞれが給料に見合った仕事をしていると自信を持って言える人が何人いるのか、職員自らが考え直して頂きたい。</p> <p>一般の給与所得者は、日々努力をして勤務先が利益を上げるような仕事をしなければ給料に反映されないばかりか、仕事が出来なければ解雇されることもあります。</p> <p>公務員は仕事が出来なくても解雇されることは無いでしょうが、給料の元が税金であるという事を本当に自覚しているのでしょうか。</p> <p>法律や労働組合、職員自身の抵抗があると思いますが、税金は公務員の為にあるのではないと思います。全体で3割カットしても町民の収入よりは高い水準にあると思います。</p> <p>3割カットすることで若干税収は減少すると思いますが、3億前後で税収の3割くらいの財源が出てくると思いますので、ある程度復興するまでは、町民のため、山田町の為という意識を強く持って削減(その町に合った常識的な水準)にあたり、行政といえども利益を追求していただきたいものです。(利益を見込める事業を選択、安易な帳尻合わせ厳禁)</p> <p>参考にして頂けるかどうか、また不可能な事ばかりかも知れませんが、前例が無いとか法律の壁があるとかで思考を停止せずに、障害があってもできる方法を真剣に模索していろいろな意見の中から良い案を選択して下さい。</p> <p>同じような意見を持っている町民は、30代、40代の若い世代の中に沢山います。ただ、誰に言えばよいのか伝える方法が分からずにいます。復興の兆しが見えたときに中心となる世代の意見を吸い上げきれないように感じます。</p> <p>委員会で検討しているから、懇談会等も開催しているからという受け身の考えではなく、多少時間が掛かっても懇談会等にも出席できない人達の意見を拾う事を考えて下さい。</p> <p>(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
21	町職員給与	<p>(前ページから)</p> <p>100年前の町民で現在の発展ぶりを想像できた人はいないと思います。科学技術が進歩した現在、未来はある程度予測はできると思います。</p> <p>年配者の豊富な経験と20年後・30年後に山田町を動かしていく若い世代の柔軟な発想をより多く取り入れ、100年後の山田町をどのように創り上げていくのか、全国のモデルとなるような、後世の町民が全国に誇れる町創りを目指して下さい。</p>
22		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデバイド(情報格差)を何とかすべき。高齢者が多いので簡単にできるような配備を望む。 ・三陸道に災害時の連絡手段、せめて数日乗り切れるだけの備蓄など欲しい。 ・三陸道から町に行き来できるような道路もほしい。 ・船越小学校の建てる場所を安全な場所へ。 ・四十八坂の開拓 ・商業施設など復活はうれしいが災害時逃げられる状態にあるのでしょうか？できるだけ早く指針を出して頂きたい。 ・復興計画が確定して高台移転になればホームマック、びはん、しまむらなど通いにくくなるのでは？しかも企業としても採算取れなくなる可能性はないのか？ <p>とにかく早くどうなるのか決めて頂きたい。</p>
23	住民とのコミュニケーション	<p>1. 今回の震災被害を再評価させ、それを元に復興計画を考えさせる</p> <p>この震災から5ヶ月経過しようとしています。もうそろそろですが、ある程度この震災について冷静に評価できる時期にも来ているところだと思います。そこで、岩手県東日本大震災津波復興計画案の第3章の3「まちづくりのランドデザイン」部分を参考として、町民にこの震災に対して「住んでいる地区としての被害」を客観的に評価してもらい、改めて復興計画への参考としてご活用すべきではないかと思います。</p> <p>質問事項に関しては、次のとおりになります。</p> <p>(1) 今回の震災を通して、皆様が住んでいる地域は次の中からどのような地域に該当すると思いますか？</p> <p>(2) 住んでいる地域に対して、県などではこのような復興計画が建てられています。それと照らし合わせながら、自分の住んでいる地域ならどのようにすべきとお考えでしょうか？</p> <p>(3) 今回の浸水地域でも住むことができるやり方もあるとすれば、その地域に住みたいですか？</p> <p>また、住民が主体となって復興計画を立てられる自治体も多いと聞きます。アンケートについては、今回ばかりではなく2,3ヶ月に一回とっていったりするなどして、定期的にコミュニケーションをとっていくことも大事だと思います。これで住民の細かい要望や意見もとっていくことで、生活向上につなげるのは肝要だと思いますので、定期的な意見交換会の実現をお願いします。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
23	住居の新築等の希望実現	<p>(前ページから)</p> <p>2. 住居の新築については、市民町民の希望通りに</p> <p>1で述べた震災被害の再評価および復興計画のプランニングについて、一通り復興計画の目途がつくとします。以前新聞や自治体で行ったアンケートからも、高台への住居移転を望む方、また今まで通り海岸近くに住みたいという方で二分している様子が伺えます。これに関しては、意見の数を問わずに希望しているのであれば、移転計画に絶対に従わせることなく住民の希望通りにすべきです。</p> <p>というのも、津波で被災した地域でも建物を修復して生活している人もいますし、建っていた場所にプレハブなどを建てて店を営んでいるところもあり、新たに借金も抱えている中で生活再建を図っている人もたくさんいます。その努力を行政の指針で無駄にすることはいけないですし、自治体内での経済活動の活性化なくして復興は成し遂げられません。また、主要産業である水産業の復興も大きな鍵になりますが、水産業の復興にはただ漁業に必要なものを準備するだけでなく、魅力ある港町を改めて作ることもまた大切です。特に三陸地域は世界屈指の漁場であり、他県や多国籍の船も往来します。彼らには自動車とかの移動手段ありません。その中で寄港した際に、宿泊施設や酒場など一定の繁栄とインフラも必要になってきます。そのためには、被災地域で人が働くのはもとより、人が住むのも致し方がないことと考えます。</p> <p>そして、高台に移転する方針を行政で固めたとしても、その用地の確保で時間をかけていては住民にも不満が生じてくる可能性も出てきますし、待ち望む形での早期の復興は期待できません。また、山林もマツタケが取れるわけであり、自治体の貴重な財源でもあります。大雨による洪水の被害も予想されます。そこをなくすことも地域の衰退に影響するでしょう。</p> <p>以上、これが居住に関しては住民の希望通りにすべきと考える理由です。若干高台移転に関して反対する主張になったところは、申し訳なく思います。ですが、高台への住居移転を望むにしても、また今まで通り海岸近くに住むにしても、災害に備えて(特に東南海地震において)準備ができて環境を整える必要があります。</p> <p>まずは高台に住居を移転する人は、家を建てる際に津波などで家を失う人の避難所としての役割を持たせることも必要ではないかと思えます。そのため家を建てる際には大きめに作ってもらうか離れを建てたりして、家を失った人のために布団や防災用具・防災用食品などを確保するようにしておくように努めるようにしてほしいです。親戚間での連携で、被災していない地域に住む家族が住んでいる場合がその役割を果たすというのを決めることもいいでしょうし、避難所兼用住宅という制度を設けてやっていくのもいいでしょう。当然ながら意識づけも大切です。行政としては用地の確保は必要命題であるとは思いますが。しかし、後にも述べますが大雨や大地震に対しての被害が起きること、住民の往来も想定して場所を考えていただければと思います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

22	住居の新築等の希望実現	<p>(前ページから)</p> <p>一方、津波で被災した地域に生活したり仕事をする人は、避難訓練の参加の義務付けや避難の際の避難経路の設定・確保、財産管理のために持ち運びしやすい金庫の設置の義務付け(津波警報発令時にのみ取り外し可能なタイプならなおよし)、家や財産などが流出した際の保険の創設および加入の義務付けなど、地震・津波被害に対する準備や意識をつけることが必要になってきます。また、上述の通り漁港や産業用の港湾都市としての整備もしていかなければなりません。これしかいい対処法がないというもおかしいのですが、津波に強い町の整備(特に、仙台港以南や陸前高田のような平地が広がる地域には効果的なものですが)として、地階の地震の揺れが大きくなり被害が少なかったことや東京でも地下鉄を活用した災害時のインフラ整備が行われているという視点から、地下空間を活用したインフラ及び避難施設の整備を提案します。</p> <p>さらっと読むだけではお金がかかりそうな話ですが、決してそうではありません。思うよりも安く、そして国や自治体で作成された復興計画よりも短くできます。正しく扱っていけば、防波堤を建てるよりもコストパフォーマンスとして効果的ですし、2次災害も含む津波被害から防ぐことも可能であることも自信を持って言えます。それを時系列を追って説明します。パワーポイントを合わせて添付しますので、参考に見ていただければと思います。</p> <p>まず津波によって更地になった住宅地域全てをおおよそ3m位の深さまで掘り下げます。掘った土はコンクリートにしたり、コンクリート・鉄筋の瓦礫と組み合わせて防波堤を作ったり、土嚢にしたりします。それと同時に、コンクリートで作った土台付き津波シェルターと共同溝付き道路を内陸部および工場にて作っていき、その上でこの2つが完成したところに共同溝付き道路と津波シェルター付き土台をパズルのように組み合わせていき、そこから建物を建てていきます。共同溝に電線や上下水道も東京の地下のように一つのマンホールに集約して入れるようにやっておけば、電力も水道も安定はするし、ネット回線を通じて情報も把握できます。また地下なので、津波はおろか原子力発電所の爆発による放射能の防止にも大きく貢献できます。これが基本ですが、ここまでを半年をめどに終わるようにします。これにあたって、いろいろと区画整理や地権問題などはっきりさせていくことが重要であり、その上でパズルにあたる図面を作っていきます。ここで航空写真やデジタルデータなどを活用して、区画を確認作業に役立てていきます。また代替道路や水道などの施設などの指定や敷設をしなければならないだろう。これを今から始めるとして、8月入る前には終わらせたいところです。</p> <p>これが完成すれば、地震や津波が来ても、すぐに避難ができ、衛生面やインフラ面・食料・家の財産・不測の流出した放射能・家族単位でのプライバシー空間の確保など、今までの震災で課題となってきたことについても未然に防ぐことができます。また、以下にある人員の活用によって24時間体制でできるのであれば、建設業者の都合にもかかるとは思うのですが、2年以内に被災地域一帯は復興またはその素地はできると考えられます。政府試算が少なくとも3年と見積もっているようなので、それよりも早くできるわけです。しかし、作るに当たり人力的な経費も当然ながら問題になってきます。そこで活用できるのが、ボランティア・自衛隊・服役囚・民間の業者です。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>
----	-------------	---

番号	項目	意見
23	住居の新築等の希望実現	<p>(前ページから)</p> <p>ボランティアは、食事給付や被災者の相談、役場の事務以外であれば、できるだけ新しい区画の図面作成の協力と穴掘りに従事させたい。海外からのボランティアも同意があれば、こちらに回したいところです。</p> <p>自衛隊は主に穴掘りである。そのために昼間に爆薬や爆弾などを活用させて早期に掘り下げることにも貢献できるでしょうし、夜間にも穴掘りとして従事することもできるでしょう。騒々しくはなりますが、日本らしい兵器の平和利用としても期待はできるでしょう。もし海外からの軍隊の派遣が許されるのであれば、ここに従事させるのもありでしょう。</p> <p>服役囚も主に穴掘りですが、施設が整備されたり業務提携、職業訓練校と同じ内容の事前研修とかが取れば、コンクリートで作った土台付き津波シェルターおよび共同溝付き道路づくり、家や建造物の建設にも携わることも可能だと考えます。ただし行うには、刑期の減免などの判断には含めないこと・希望者による作業にすることなど条件をつけるべきと考えます。施設が調べられたり業務提携、職業訓練校と同じ内容の事前研修とかが取れば、コンクリートで作った土台付き津波シェルターおよび共同溝付き道路づくり、家や建造物の建設にも携わることができるでしょう。服役囚に関しては、経費の掛からないマンパワーとして大いに活用してもいいでしょう。海外の服役囚にしてもしかりです。ただし、治安面について不安がありますが。作業する場合には、必ず警備員を置くようにするなど脱走対策をとる必要があるでしょう。</p> <p>民間の業者はショベルや機材、マンパワーなどで穴掘りと土台作り、家の建設にわたり現場監督として活躍させたいです。そして地域経済の復興を図るためにも、土木であれば穴掘りを、セメント業者はセメントを、建設業者はニーズに合わせた建築物を、造船業者は船を日本の総力を結集してやっていき、その上で経済をまわしていけば、経済回復は見込めると思います。</p> <p>そして完成した津波シェルターは地震が来て大津波警報が発令された場合、住民に津波シェルターに入るようにできるように指示をします。高台に逃げるよりもすぐに避難できるので、老人はすぐに避難しやすいと思いますし、トラウマ防止にもなります。津波警報が解除になったら、自動的に救助のアンテナ(というより銚子のようなものに旗をつけた感じで)を発射するようにしておきます。瓦礫でも突き抜けるような力で突き抜けさせるように。で、上の方でシェルターをあけてもいいよという指示が分かるように、連絡が取れるようにしておきます。それでもいいのですが、共同溝の出口を高台に置いた上で非常時に外部との通行ができるようにしておきたいところです。</p> <p>という具合に津波シェルター並びに共同溝つき道路の設置について述べましたが、これにも弱点がないというわけではありません。大地震が起きた際に、どの出入り口においても完全に密閉状態にしないと津波が入ってくるわけであり、大惨事を引き起こす可能性も否定できません。また、定期的に入って掃除やメンテナンスをしないと避難の際に汚くて逆に大変になる恐れもあります。そのため大津波はまた来ると仮定し、試験として設置というのありでしょう。それに費用の面もかかるとは思います。年月と経費をかけて防波堤を整備・補修してきた費用から比較し考慮すればコストパフォーマンスとしてよいものではないかと思しますので、ご検討いただければと思います。(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
23	ガレキ処理・活用策	<p>(前ページから)</p> <p>3. 大量のガレキの処理および活用策について</p> <p>この震災での津波でがれきが大量に発生しました。このガレキの処理に関して、見積もりとして 200 億円かかるという話もありますし、ガレキ処理の経費を国で支払うという話もあります。しかし、工夫をしてガレキの量は減らしていけば、経費を抑えることが可能になると考えます。国も財政難である中、そういう工夫から財政削減に貢献することは大いに賞賛されることであると評価されると思いますので、是非ともご検討いただければと思います。</p> <p>ガレキは本来なら再利用できるものなら再利用できればいいのですが、どうにも今の日本にはその処理能力が劣っている感があります。一方、今後来るであろう水害などに備えて、壊れた堤防に暫定的に土嚢を積んでいるのですが、なかなか足りないという話を聞きます。まずひとつは、このガレキを土嚢袋に入れたり、車など大きめのものは積み重ねたりして、暫定的な堤防を作るという考えはないのだろうかと疑問に感じます。これであれば、ある程度ボランティアの作業にもなりますし、それを土台に鉄骨を組んでコンクリートを流し込み堤防化させたりすることもできると思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>一方、使えなくなった漁具の網をミサンガにして販売をしております。こういう流れから、ガレキを使ってはし置きを作ることはできないでしょうか？それ以外にもしっかりと洗えば、食器とかでもまだまだ使えることだってありますが、ガレキを少し削った上で「復興はし置き」として売り出してみたいかと思いますが、木であれば箸にしても、大きめのものなら皿にしても悪くはないと思います。しかしながら、はし置きが通じるのも箸を使う文化圏ですので、スプーン置きやフォーク・ナイフ置きとして売り出してみたいかと思いますが、少し汚く感じてしまうならば、ナプキンで包んで使うことも趣がある使用方法ではないかと思えます。これを新たな復興支援として世界的に売り出していけば、日本文化の理解という意味でもいいでしょうし、ガレキの処理も一気に進むことにはなり、そして復興産業の基盤になるわけであるのではないだろうかと思うのだ。</p> <p>しかし、商品の安全性を確認するためにも、放射能検査を行っていくことを義務付けていかなければいけないでしょう。とはいえ、放射能測定器も機械ごとに測定値が異なるという話がありますので、複数の測定器で検査をするなり、測定器のメーカーや商品名を明記するなどして安全を訴える必要性はあると思います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
23	復興計画作成にあたり留意すべきこと	<p>(前ページから)</p> <p>最後に復興計画を再検討するに当たって、心から留意していただきたい点が4点ございます。この4点は国や県、各市町村の復興計画において、指摘する点に対して注意を払った計画がなされていません。計画の実行に当たって、是非ともこの部分に気をつけて取り組んでいただければと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>4. 復興計画を作成するに当たって留意しておくべき4点</p> <p>(1)「津波からの犠牲者を出さない」と言っても、津波を起こす地震はいつどういうときに起きるものか分からない！</p> <p>津波を引き起こす地震は、本当にいつ起こるものか分かるものではありません。食事の支度時間に起こること、寝ているときに起こること、通勤時間に起こること、さまざまなケースが考えられます。仮に今回の大震災が夜間に起きた場合や大雨が降り続けている後に地盤が緩んでいる箇所が多くあった時に起きた場合には、さらに多くの被害が出たとも考えられます。これに備えて、実施時間を教えないゲリラ的な避難訓練を行うことが必要ではないかと思えます。しかし市町村レベルで行うこともいいのですが、メディアによる情報伝達の観点から限界も出てきますので、国家もしくは都道府県レベルの規模で行うことも将来的に検討すべきではなからうかと思えます。</p> <p>(2)「津波からの犠牲者を出さない」と言っても、1次被害だけでなく2次被害3次被害を起さないことも重要！</p> <p>津波の被害は津波が来た事実による被害(1次被害)だけではありません。避難所生活の長期化における健康被害や農地被害などの2次被害、津波が来たことによって地域としてのマイナスイメージになってしまっていることや、それに伴う産業の停滞などの3次被害も現在進行形で起きております。その対策もいまだに充分に対応ができていない状況です。まだまだ犠牲者は出ています。また、津波の被災地域に工場や公園にするという国や自治体の復興計画のプランを当てはめた場合、この2次被害・3次被害を繰り返すことになるのは一目瞭然です。そして万が一津波で被害にあった場合の保障や再建計画のプランニングというのなされておられません。この現状を認識していただき、現在起きている2次被害・3次被害への迅速な対応、および工場や施設が津波被害を受けた場合の保障計画についてご検討をいただければと思います。また、同時に今後起こりうる自然災害・地震津波の被害に行政として、市民としてどう対応していくかの指標を作るため、復興事例事典を作成する必要があると思えます。内容としては、東日本大震災によらず阪神大震災や中越地震、スマトラ島での地震津波被害、チリ地震津波などの国内外の大規模な地震災害の事例を挙げ、予兆として何がおきていたか、発生後住民としてどう対処したか、政府としてどういう指示を出したか、1次災害として2次災害としてどういうことが起こりどのように対処したか、これらに携わった者として反省すべき点を挙げて次に備えるようにすべきかななどを全て挙げ、地震や津波被害に対する今後の復興計画に対する参考資料やマニュアルとして作るべきだと思います。(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
23	復興計画策定にあたり留意すべきこと	<p>(前ページから)</p> <p>そして日本はもとより、海外に向けても発売するべきであり、その収益を自然災害で被害を受けた地域への義捐金としてまわすべきです。</p> <p>(3)津波ばかり目を向けて大雨や地震の被害を考えないことはしないように！ 「津波からの犠牲者を出さない」という目標も理解できなくはないのですが、そこに重点を置きすぎて大雨や洪水、地震で起こる災害の対策をおろそかにしてはいけません。東日本大震災において丘陵部にある仙台市の新興住宅地の一部では、地震で地盤が崩れて大きな被害を出しております。また宮古市や釜石市にある急峻ながけ周辺に建てられている住宅では、大雨の折にがけ崩れの危険性から避難指示や勧告が出されていることもよくある話です。津波の被害を避けることも悪いことではありませんが、大雨や大地震に対しての被害が起きることも想定して計画を立てるようご検討をお願いします。</p> <p>(4)上級官庁の指示待ちでなく、民間への協力など独自裁量で動くことも積極的に活用してほしい！</p> <p>陸前高田市の戸羽市長の著書『被災地の本当の話をしようー陸前高田市長が綴るあの日とこれからー』を読みました。国や県など上級官庁の許可や手続きがなければ、工夫すればすぐに処理できるものでも何もかも遅くなってしまいう現実がわかり、現場としてもはがゆいという思いが伝わるものでした。法律に基づいてやることも必要ですが、このような大災害の中フレキシブルな対応が求められる中で、法律に基づいて動くことを守っているだけではすまされるものではありません。政府ごと国民を馬鹿にしているのかと思われる話になります。ですので、決して上からの支持や許可を待つだけでなく、被災自治体としても自治体判断の独自裁量で判断して行動していただきたいです。上級官庁の心象は悪くなると思いますが、「〇〇するためには、△△が必要です。しかし、国や県の許可が必要でだめといわれます。でも、当自治体で独自に権限を発動して率先的に進めていきたいと思います。ただ()の位費用も必要ですし、技術も必要です。用地はあります。誰か協力してくれませんか。」ぐらいの強力なメッセージを出して、民間に協力を求めることもいいと思いますし、国や県の復興計画を無視した上で策定したこうやれば早く復興できるという復興計画を出してみてもいいのではないかと思います。</p> <p>厳しい処分が下って将来の生活に不安の残す可能性もあるかもしれません。もし仮に行政判断として違反行為があったとしても、憲法を楯にして裁判する姿勢を起こしてもいいと思います。意義のないけんかはありません。むしろ住民の賞賛は残ります。戦う上で知恵を出してほしい所がありましたら、私に頼ってもいいです。住民の悲鳴を生かした戦う行政法務、そして復興をしていただければと思います。</p>

番号	項目	意見
24	ソフト面の人材育成	<p>復興計画は土地の整備など、ハードな側面の意見が多いと思います。僕はソフト面での人材育成も視野に入れてほしいと思います。パソコンが使える、使えないというデジタルデバイドが叫ばれています。若い方は考え方が柔軟で知識を吸収する力があります。若い方に自分で考える力をつけてもらって、山田町から情報発信してもらおう力になってほしいと思います。コンビニも良いのですが、街にインターネットやパソコンが自由に使える設備を作って、ソフトもオフィスや adobe のクリエイティブスイートなど備えて、ソフトを使いこなせる人材を作らないといけないと思います。ゲームや Youtube だけ見るという情報居住者だけではなく、自ら、情報を発信してくれるような人材を山田に残しておかないと、関東からの遠くに住んでいる方に、山田でどういうことが起こっているのか情報発信できないという事が起きるのではと思います。若い中学生の方が町役場で Youtube などを見て、喜んでいますが、自分から Youtube にアップロードできる人材になって欲しいと思います。これからはダウンロードではなくて、アップロードの時代だと思いますので、人材育成にお金を掛ければ、帰ってくるものがあると思います。つたない意見ですが、参考になれば幸いです。</p>

番号	項目	意見
25	防波堤	<p>町づくりという言葉の指し示す範囲は広い。そこであえてここでは津波防災の視点に絞り意見を述べる。</p> <p>十年程前、大沢の津波について詳しく調べた事がある。津波の周期を考えれば、もう大きな津波が来るはずだ。と言うよりも既に来ていなければおかしい。そう考えていた。しかし津波が来たらどうなるか、どうすればいいのか。来る前にどうすべきか、そこまで考えなかった。それが私の限界だった。悔しくてしょうがない。</p> <p>山田町に住む者は津波が来る事など誰でも知っている。しかし自分が住む所を簡単に選ぶ事などできない。我々は津波の脅威と折り合いをつけながら生きて行くしかない。でも本当に折り合いをつけて生きて行く事ができるのだろうか。</p> <p>高台移転は理想である。小さな集落はこれを検討するべきである。しかし過去の例から見ても大きな集落全体の高台移転は非常に難しいと考えざるを得ない。仮に移転しても厳しい規制がなければ、被災想定地域に戻って来たり、新しい人々が入って来たりするのは目に見えている。さらにそれが数十年後、百年後となればその結果は明らかである。問題は被災区域の活用する方法があるかにかかる。津波対策ということは考慮に入れることをせずとも、経済的にその方が合理的であるという条件がなければ、大きな費用と町民の犠牲をつぎ込んだ高台移転は失敗してしまうだろう。</p> <p>津波と折り合いをつけて生きていくことはやはり無理なのか？</p> <p>私の出した結論はこう。</p> <p>山田町の地理的条件を生かす事ができればそれは可能であると。</p> <p>今回の津波は言い伝えられた明治三陸大津波を上まわる巨大津波だった。テレビなどでは千年に一度という表現をよく見かけた。しかし報道がイメージしている所を信じるのは全くの間違いである。今回の津波は史上最大の津波ではないし、千年に一度でもない。</p> <p>ちょうど四百年前慶長三陸地震があり、これによる津波は今回の津波よりも大きかった。</p> <p>どれ程大きかったかと言えば、小谷鳥を直撃した津波は峠を越え、大浦の街を背後から襲ったのである。</p> <p>津波対策は今回の津波を基準にして考えるべきではない。もちろん津波の大きさに限度があるわけではないが、最低でも記録が多く残る慶長三陸地震津波を想定しなくてはならない。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
25	防波堤	<p>(前ページから)</p> <p>ではどのくらいの高さを想定しなければならないか。もちろん今後詳しい検討が必要であるが、現在私がイメージしているのは今回の津波プラス5～6メートルの巨大津波である。</p> <p>具体的な構想を述べる。まず湾内に位置する大沢、山田、織笠の対策である。湾口が極端に狭い山田湾の特殊な形のお陰で湾内の波高は比較的低い。この地域は海岸線に沿った防波堤で防御する。その高さは大沢14メートル、山田、織笠は16メートルである。</p> <p>田の浜は二重の防波堤を置く。一つは現状の防波堤で高さも同じ。もう一つは家の残った高台の地区の前の段丘崖部分にそこからさらに8メートル高い防波堤を置く。二つの防波堤の間は残念ではあるが居住は不可としなければならない。もうひとつ田の浜に必要なのは海岸部の防波堤付近に高さ27メートルの見張り台を設置することである。今回の津波では海の様子を見ていて津波の犠牲になった方が多数にのぼる。避難すれば安全なのは分かりきっているが、漁師に海を見るなどというのは無理な話である。この犠牲を無くすためには、20名以上を収容し、巨大津波にも耐えることができる見張り台を海辺に作る必要がある。</p> <p>大浦はまず現状の防波堤の位置に14メートルの防波堤を置く。そして小谷鳥へ向かう峠の頂上付近に3メートルの防波堤を置く。頂上から小谷鳥の海岸線まではこれも残念ではあるが居住は不可として作業小屋程度のもののみ可とする。小谷鳥地区は小谷鳥の海岸には6メートルの防波堤を置き、漁港東の高台の地区のみ居住可能とするべきである。</p> <p>補足だが、防波堤は必ずしもコンクリート製とは限らない。土でもよい、また、巨大防波堤という方策には当然河川周りの処理が必要。同じ高さの堤、または河口に水門が必要になる。</p> <p>その他、防波堤の以外の津波対策のポイントをいくつか加える。役場、病院、学校、保育所、養護施設、消防署、警察署など街の基幹となる施設は防波堤なしでも想像できる最大の津波に耐えられる高台に建設されなければいけない。無理に移転する必要はない。建て直すことが必要になった時移転すればよい。また災害時に各地区をつなぐ防災道路もまた最大の津波に耐えられるものでなければならない。防災道路のない地区には早急に整備が必要である。災害時の非常電源などこれ以外にもやるべきことは多いがここでは置いておこう。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
25	防波堤	<p>(前ページから)</p> <p>ではこの対策をどのくらいの期間で行うべきか。これは非常に重要である。対策に実行は急ぐ必要はない。何故なら津波は数十年後、数百年後に来るのだから。今やらなければならないのはその基本方針を打ち出しコンセンサスを得る事である。このような大きなプロジェクトは今、熱いうちでなければ認められる事は難しいだろう。他の被災地では津波対策として高台移転を中心に考えているように見える。他の地域に先駆けて山田町独自の方策を打ち出すのも、巨大防波堤という日本では前例のない構想を現実にするためには必要だと思う。そしてこれを百年かけて建設するのである。</p> <p>百年というのは今回の津波より少し小さい明治29年クラスの津波の来る時期を想定したものである。百年後、その津波がやって来た時、浜の人々が「いやあ、でっけえ津波だあなあ」と話しながら防波堤の上でたばこをふかしていたとしたら私は最高に幸せだ。</p> <p>数百年という時間はそれほど長い時間ではない。大沢の魚賀浜神社の前身である澤養寺はかつて浜川目にあったが四百年前の津波で流出し、現在の場所に再建された。それを知る人々にとってはあの津波がまたやってきたのだとを感じる事ができる。四百年というのは人間にとって十分に感じる事ができる時間である。数百年後にやってくるだろう今回の津波よりも更に巨大な津波を想定した対策は絶対に必要である。</p> <p>山田町は津波常襲地域とも言える三陸海岸にあって防波堤による津波対策ができる可能性を持っている。郷土を愛する住民達が可能な限りその土地を離れることなく安心して暮らす事ができる町、そして数百年後の人々が昔の人は偉かったと言えるような町、山田町がそんな町となってくれる事を望む。</p> <p>たった一人も津波で死ぬことのない町にしたい。 そしてこれは可能である。</p>

番号	項目	意見
26	高層共同住宅	<p>山田町の復興に関するアンケート調査を見ますと、4(2)でどのような種類の住宅に住みたいか、という問いがあります。ここでは住宅被害を受けていない方も回答数に入っているかとは思いますが、全体の54.4%が持ち家を新築ないし修繕して住みたいという希望が見て取れます。このように持ち家意識が高いのは従来からの暮らしを続けたいという当然の気持ちですが、現状では高台は山田、織笠、大沢、大浦など各地域少ないです。また、新たに山を崩し高台を造成するのは自然を大切にし、水産業(山の栄養が重要)、観光業を重視する山田町にあっていないように思われます。</p> <p>また、大沢レーダー口付近や豊間根地区に移転していただくこともできますが、アンケート4(1)が示すとおり、元の場所やもとの地域に住みたいという回答が62.3%を占めており、3304被災世帯すべてを大規模な面積の高台を住宅が希望する場所に確保することは難しいことが想定されます。</p> <p>そこで私は、山田、織笠、大沢、大浦地区に高層の集合住宅を建設することを提案したいと思います。例えば山田地区で120世帯程度共同住宅を希望した場合、各階世帯程度で8階建ての高層住宅ができます。1,2階を駐車場、商店、銀行、郵便局、集会場住人の物置などに利用していただくと10階程度の建物になります。数十年程度の繰返し周期で来襲する三陸沖、チリ沖の津波の際は浸水するのは下層の住居のみで済み、上層に住んでいる住民はすぐに通常どおりの生活を送ることができます。また共同住宅は避難ビルとしても活用することができることから、災害弱者である高齢者のニーズは高いものと思われれます。また商店や金融機関に入っただくことでコンパクトシティの役割も果たし、これも行動範囲の狭い高齢者のニーズが高いものと考えられます。地域のコミュニティーも崩れず、まわりに公園が整備されたりと地域の核として機能するものと考えられます。</p> <p>鉄筋コンクリート造りの住宅であれば既にゼネコンの技術力は高く、地震に対する安全性も高く、津波にも流されません。建物の寿命も戸建より長いです。また、建設価格は戸建と比較して高額というわけでもありません。行政や非営利団体ないし民間管理会社が建設、管理し、販売もしくは賃貸はどうでしょうか。被災を受けた土地に建設しても高層であり危険性が低く、入居者の土地を行政側が購入し、それを住居の購入・賃貸の頭金として活用できます。</p> <p>山田町民は持ち家意識が高いと考えられ、アンケートでも共同住宅や公営住宅への入居希望は7.2%と低いです。しかし、アンケート回答者は上述の構想共同住宅のメリットは浮かんでいない人が大半だと思われれます。あらかじめこのような住宅の選択肢があると行政に示されていれば、アンケート結果も違ったものになった可能性があります。被災住宅の住民の20%が高層住宅が建設されるのであれば住みたいと考えを変えたとして約660世帯が集まります。山田、織笠、大沢、大浦地区に100～300世帯規模の高層集合住宅が建設できそうです。</p>

番号	項目	意見
27	今後の生活	<p>いつもお世話になって居ます。</p> <p>町長沼崎喜一殿始め、復興推進課の皆様、山田町役場全職員様、日々の激務、御苦労様です。本当に感謝して居ます。防災無線も、とても聞き安くなり、助かって居ます。欲を言えば、耳の遠い、お年寄りが増えて居るので、もう少しボリューム上げて欲しいです。在宅時は、常に窓を空けて居ます。私には、しっかり聴こえます。が、自宅の一階で過ごす、耳の遠くなった母親には、聴こえない事が多い様子です。補聴器使わせたいのですが、言うこと聞かない母親です。せつかく流してくれて居る、ラジオ FM76.7も聞いてくれません。本当に申し訳ありません。</p> <p>「山田町の情報は役場に全部ある、まずはそれを見たり聞いたりした上で、不明点を聞いて！。それでも、文句が有るなら、ハッキリ言うなり、文書出せば！役場の皆が、どんだけ必死で稼いで居るか、あんた全然、理解してないよ！」</p> <p>携帯にて【山田町災害対策本部情報】を早朝、時間の許す限り、読ませて頂いて居ます。</p> <p>1940 戸もの仮設住宅完成、おめでとう御座います。全町民の住所決定、本当におめでとう御座います。半年近くに及んで、慣れた避難所からの、今月中のお引っ越し、体力的、精神的にとっても大変だと思います。</p> <p>上記、情報を見て、先日、役場に緒手続きに行く際、コミセンの調理場側を通り抜けました。窓越しに、辛そうな高齢男性の姿を、お見掛けしました。あくまでも私の見解でしかありませんが、『きっと、ここや、他の避難所には、お年寄り、何らかの形で保護等が必要な方、深い事情をお持ちの方々が、身を寄せて居るんだろうな…。(少し我儘を通した方もかな…。)』 思いました。</p> <p>【我が家を失う】 【半年近くの避難所生活】 【限られた期間、仮設住宅での新生活】</p> <p>故郷、山田町に居たい、住み続ける為には、どうしたら良いのか。皆、復興ビジョン、沢山の情報の元に、悩み、考えて居るはずです。幸い、我が家は残ってくれたので、沢山の方々が、休みがてら、様々な話をしに、来てくれます。</p> <p>確かに【3月11日】大災害は起き、多くの犠牲者、多くの物を失い、避難生活は余儀無い事でした。</p> <p>ですが、世界中に支えられ、お世話になり、やっと完成した仮設住宅へお引っ越しする方々のモラルは酷すぎます。公共施設は勿論、最低限、体の動く方は、自分が生活して来た場の清掃して欲しいです。</p> <p>ボランティアさんの活動に、お尻を向けながら、丸々と肥えた方に、「今、引っ越し中です。新居を早く綺麗に片付けたいです。」などとテレビに出る事は、山田町の恥さらしでしかありません。</p> <p>今、宮古の病院に来て居ます。会計待ちで、天気予報見て、ニュースを見て居ます。 (次ページへ)</p>

	<p>(前ページから)</p> <p>同じようにテレビを見て居た皆さんが 「山田の人達、だらしないって、本当にその通りだな。情けないもんだ。」と、言って居ました。小さな子供も見て居ましたし、聞いて居ました。</p> <p>歪んだ家が残り、喉にポリープが出来、就職を制限され、障害者年金で、息子ひ育てる私は、破産寸前です。</p> <p>残った車の修理費、残った家の維持、日々の生活費。 この先、どこからお金を捻出したら良いのでしょうか？</p>
--	--

番号	項目	意見
28	インターネットを活用した産業の再生・発展	<p>復興計画を拝見し、山田町が目指すべき方向性として掲げられた基本理念3点について、支持することをまずは明示させていただきます。「町づくり」と「住民主体の地域づくり」については、現在、遠く離れて生活していることもあり、基本的には山田町に住む方々の意見が尊重されるべきと思い、私の意見としては特にございません。残り「産業の再生・発展」について、これまでの仕事の経験を踏まえ、よりよきものに出来ないか、意見をまとめさせていただきます。特に、商業・工業・観光業に焦点を絞った意見となり、また、復興ビジョンに載せるべきか検討をした上で排除した事項についての意見である可能性があり、予めご了承下さいますようお願い申し上げます。</p> <p>【産業を発展させるためのインターネット活用】</p> <p>現在の復興ビジョンにおいて、情報通信関連について明示されているのは「まちづくり」における防災に関連した部分のみとなっておりますが、産業においてもインターネットを中心とした情報通信関連投資は、明文化が必要な程に重要なものと考えております。復興ビジョンの各産業に関する現状及び喫緊の課題、及び将来性については大きな異論はございません。但し、どの内容を見ても近隣の他市町村でも掲げそうなビジョンとなっております。水産業、工業、観光業共にPRしていくことが重要と捉えられている中、これまで以上にインターネットを活用しPRし、差別化していく必要があると考えます。大げさかもしれませんが、産業の再生のみならず発展を考える以上は、PRの域を超えたマーケティングと考える計画すべきではと思います。</p> <p>例えば、テレビなどのマスメディアを通じて、新商品、新ブランド、新観光地を訴求出来たとして、それを見た一般の方がインターネットを用いて調べた際に十分な魅力を訴求する為には、おざなりなホームページの内容では折角のチャンスを逃すこととなります。また、これまでのマスメディアからの展開とは別に、積極的にTwitterやFacebookといった一般の方同士のコミュニケーションが生まれるメディアを活用して、共感・共有を生むことも現在のマーケティングでは有効な手段です。例えば、佐賀県武雄市は行政のホームページをFacebookに移管しました。(http://ja-jp.facebook.com/takeocity)。リスクもあるため慎重な検討が必要ですし、町民のリテラシーの向上が必要となりますが、住民主体のまちづくりにも繋がる一例と言えます。</p> <p>【インターネットで市場を広げる】</p> <p>商業については、「中心市街地を設定し、にぎわいの創出へと繋げる」とのビジョンを掲げておりますが、残念ながら人口が減ってきているのが山田町の現状であり、果たしてそうした市場だけを見たビジョンで、商店経営者が幸せになれるような再生・発展はありえるか疑問を持っております。商店街が復活することは町民の助けになれば、商店経営者にとっての発展は厳しいのではと思っております。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
28	インターネットを活用した産業の再生・発展	<p>(前ページから) 商店経営者の努力も当然必要となりますが、インターネットを活用し山田町以外の日本全国・世界へ目を向けた、eコマースの基盤が存在すれば、大きく発展を遂げることができる可能性があります。実際の例としては、長野県小川の庄 (http://www.ogawanosho.com/) や 徳 島 県 の 株 式 会 社 いろどり (http://www.irodori.co.jp/) があります。商店街を設計するように、こういった基盤を行政が中心となって行うことで、商店経営者の未来も開けるのではと考えております。</p> <p>【波及効果】 波及効果について思いつくものを列举いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット活用の推進は防災に置けるインフラ整備にも好影響を与える可能性がある ・インターネットを中心とした企業の誘致と雇用の促進 ・町自体の魅力向上と若者の転出抑制・IターンUターン促進 ・地理的・物理的制約を受けない範囲に限定した PPP の模索が可能 ・行政と町民の距離、温度感の摩擦低減 <p>【最後に】 ビジョンにも謳われている通り、今、日本全国から注目を浴びております。小さいですが、Twitter をきっかけに私は多くの世代を超えた山田町 の人と出会うことができ、この意見書の存在も知ることが出来ました。私の周りに目を移せば、多くの方がインターネットをきっかけに縁を結び、プロジェクトへと発展させております。絶対に軽視することの出来ない情報通信手段であり、新たな発展にかかすことのできないツールです。私自身、こうして東京で社会人生活をしておりますが、就職活動していた当時、正直言って、山田町に就職するという選択肢はありませんでした。もしも、こういったインフラが整備されればサービス・事業が生まれ、これまでにない産業が芽吹くものと思います。山田を出て行った人間に山田が嫌いな人は居ません。今こうして山田を離れてもどかしい思いでいる出身者はたくさん居ます。ビジョンの中にも少子高齢化を謳う部分がございますが、これ を機に少子高齢化を受け入れての施策は優先事項としてではなく最終手段として捉え、代わりにIターンやUターンのチャンスと捉えて欲しいとも思っております。折角復興した町が少子化で住民税も高く住み着きにくい場所となつては意味がありません。少子高齢化に歯止めをかける意味でも、山田に居ながら世界 に繋がれるインターネットの活用を強く希望いたします。</p> <p>また、私の意見とは別の要望なのですが、復興計画が策定された暁には、復興計画によって目指す 10 年後の山田町のジオラマと、主要部分のパース図 を描いて欲しいです。無駄な経費と言われる方もいるかと思いますが、とても重要なものと思います。誰でもそれを見れば山田町の向かっている方向が分かるものを。絶対に復興・発展させるんだと夢を描けるものを。 (次ページへ)</p>

番号	項目	意見
28	インターネットを活用した産業の再生・発展	<p>(前ページから)</p> <p>途中段階で 1 個でも形になれば自信と勇気に繋がるものと思います。また、行政サイドのコミットが本気であることを町民に示すことが、大きな信頼に繋がると考えます。もし建築系大学の学部などにコネクションがあれば、比較的低予算で行けるのではと思います。学校側にも教育上のメリットがある気がしますし。</p> <p>とりとめのない内容となってしまいましたが以上となります。</p> <p>【追伸】</p> <p>テレビ朝日のワイドスクランブルで大浦小学校の子供たちの映像を見ました。「お父さんの跡を継いで漁師になる」と津波に立ち向かう心強い子供の声 がありました。山田に愛を持って、山田に残るという未来を選択した子が、自分の仕事を自慢出来て、山田町を自慢出来るような環境でなければと思います。</p>
29	仮設退去後の居住地	<p>3月11日の震災以来大分瓦礫処理も進んだように見えるが、その作業に活動した皆さんには本当に頭の下がる思いだった。</p> <p>被災した街並みを通ってみたとき、その変貌につい目をそらしたくなる。あれから四か月もすぎると悪臭やらハエでうんざりだ。</p> <p>被災者の今後の居住地のことで、今仮設にいる皆さんは、やがて自宅のことで悩むことと思うが、行政から何とか適地を考慮してもらいたいと感じているに違いない。どうかご配慮願いたいと感じている。</p>
30	水産業のブランド化 道の駅「やまだ」の整備	<p>漁業組合、水産加工業の復旧・復興は急務だと考えます。加えて、少子化がますます進むことから、個人や親戚同士などの小さな団体での漁協を通さずに、インターネットでの販売を推進できる仕組みづくりをしてはどうか。大船渡市越喜来の「三陸とれたて市場」http://www.sanrikuretate.com/ を参考にしてほしい。山田のカキ・ホタテ・アワビ・ワカメといった海産物のブランド化を強化し、消費者が指名買いするような魅力づくりやアピールをすべき。山田のキャラクター「ほたてかっぱ」のイラストをリニューアルし、もっと親しみやすいゆるキャラにし、海産物のパッケージやキーホルダーなど、山田のシンボリック存在にするのはどうだろうか。</p> <p>今回、被災せずに残った「道の駅やまだ」を災害時の一時受け入れや情報提供(インフラ強化)、ドクターヘリの離発着地、ボランティアや観光で訪れた人が必ず立ち寄る交流する場・特産物の飲食や販売をするアンテナショップ的役割をもっと強化してほしい。道の駅やまだが魅力的な場所になれば、観光客も呼べるし、地元の特産物(野菜、魚、郷土菓子)の生産者の売上げUPにつながり、職場としての雇用促進にもつながる。同時に「鯨と海の科学館」の早期復旧も期待したい。科学館内には、「地震の恐ろしさ」をわかりやすく伝える展示も工夫してほしい。</p> <p>(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
31	産業	<p>(前ページから)</p> <p>漁業・養殖などの回復には3年から5年かかると言われております。その間の生活の糧を得なければなりません。私は漁師の娘ですが小さいころ、実家は半農半漁の形態をしてました。以下に述べる被災しない地区での漁業従事者のあいている時期の就業は可能と思われまます。</p> <p>2 被災しなかった地区は田んぼ、畑があります。</p> <p>①実家に帰ると豊間根白山で作っている味噌での味噌汁がおいしいのを思い出しました。豊間根は沿岸ほど被災していないので味噌は作られていると思います。「おみなやさん」というそうです。増産していくことにより雇用ができます。今後は大豆をまき、製品にして山田ブランドとしてはどうでしょうか。料理家の辰巳芳子さんが大豆 100 粒運動をおこなっております。山田町は町全体として取り組むことを提案します。大豆により、山田の子供たちにさらに命の大切さを育んでほしいと思っております。</p> <p>私は「大豆 100 粒運動」の会員です。お力になりたいと思っております。ホームページ参考にしてください。</p> <p>②豊間根のなばな(菜の花)のブランド化</p> <p>山田にいたとき、豊間根でとれた野菜とって食べました。なぜか記憶に残っていますし、豊間根の地域らしさを出すといいいのではないかとおもいます。(参考ですが、北海道では雪割菜花があります。)</p> <p>緑豊かな山もあります。園芸業の推進、山田町に合った苗木・花(燃えにくい木)など育て販売する。ブランド化必要。・・・山田ブランド</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>山田ブランドとは・・・山田独自のもので、山田の強みとなるもの基準を作成・認定シールをはる。等など。行政の力に期待します。販売はセールスの力によると思います。・・・シールデザイン公募する。住民参加のプロジェクトチームで行うなど。</p> </div> <p>『地域ブランド化』として農水省で登録制度が始まるようです。それとリンクしていく方法がいいと思います。</p> <p>4 資金について</p> <p>山田債、山田サポーターを募る。ご存知でしょうが大槌では民間の水産会社が鮭を送ることを実施しているようです。山田町に於いては物品を送ることはもちろん山田に来ていただくことなども必要かと思えます。リゾート・漁業・農業など体験型、短期、長期滞在、など。</p> <p>例えばラドンなどを含む単純冷鉱泉「光山温泉」への宿泊券など(効用:皮膚病・冷え症など)、選択できるようにする。(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
31	住居	<p>(前ページから)</p> <p>住居は人間にとって生活の基本となるものです。現在は仮設住宅ですが今後は地震・津波・火災に耐えうる住環境が必要です。山田は漁業を中心とした町ですが津波を考えると再び沿岸部に住むことはむずかしいと思います。住民アンケートでは半数以上が高台を希望されております。</p> <p>平野部としては織笠の奥、関谷、関口、山谷など山田町は山田道路が残っており山裾のやや高い土地、山田道路を活用中心とした町造りが望ましいと思います。参考になればと思いますが私が現在仕事をしている墨田区には高さ 40mの防災住宅 18棟 (12階) が約 1.2km に渡り横につながってずらりと建ち並んでいます。……</p> <p>図1 山田の場合は持ち家と言う割合が高くなっていますが。集合住宅も必要であります。</p> <p>1923年9月1日、関東大震災により東京中が火の海と化した。火災旋風が発生し、瞬く間に3万8千人もの死者を出した。都は公有地が多く存在する白鬚東地区に、10万人を収容できる避難所(公園)を併設した「防災団地」を、1982年に完成させた。団地には、散水機や放水銃が随所に設置され、避難完了後には5箇所の避難口のシャッターが下り、全体を水で冷やす。それは、燃えない避難所を作る防火壁の役目を果たすそうです。</p>  <p>図1墨田川に平行して建ってます。</p> <p>山田町においても、水、電気、を備えた施設が望まれます。つまり、非常時に電気・水道が1週間は供給できる住宅ということです。水に関しては保健センターの裏山に湧き水があると聞きました。また昭和45年頃だったと思いますが関口神社の奥にきれいな川が流れていたように思います。このような水資源を活用ができればいいと思っています。</p> <p>電気は自然エネルギー特区など政府の支援が重要となると思います山田の地域の特性を生かし、ソーラー、風力、潮流なども活用できるといいと思います。</p> <p>被災した沿岸地域は最先端の施設で災害を最小にする。少し奥まった地域では住民は自然の緑の中でエコ・スマートな暮らしをしていけるように希望します。国は今秋公営住宅の建設に着手とのことですが、特に大切なことはその運営をしていく住民による自治会の組織が重要だと考えます。行政のサポートしていく体制が必要だと思います。僭越ですが墨田区を通じて見学など計画することもできると思います。山田町民、行政の方など。……</p> <p>「議員研修」などに今まで行っていたと思いますがこれからは住民参加しての見学会などでできると思います。(住民参加の町づくり) (次ページへ)</p>

番号	項目	意見
31	医療	<p>(前ページから)</p> <p>私は医療人ですので医療について述べます。</p> <p>「死ぬときは医師に看取られたい」という悲願のもと岩手県は「県下にあまねく医療の均てんを」を目標に医療を実践してきました。28 病院あつてどの地域でもある程度の医療をうけることができました。(現在は統廃合がすすんでいる。)詳しいことは割愛しますが、このままでは山田町民は医療および高度の医療を山田で受けることは困難であると感じます。山田の人々に医療の現状を情報公開してほしいと思います。</p> <p>1急性期・がん診療について</p> <p>心臓疾患・脳疾患・がん疾患など</p> <p>平均寿命まで健やかに生活できるといいのですが、現実には困難なことです。循環器、脳疾患の治療ができる病院は宮古、釜石、盛岡ということになります。山田町に年齢別人口は 65~64 歳が多くなっています。(平成 23 年年齢別人口参考)働き盛りの人が急性期疾患になったとき、治療し、また社会復帰することが目標になります。そして個人の問題ではなく町民が現在の山田における急性治療の現状を理解してもらいたいです。また利便性の高い交通(道路)の整備や、救急搬送などの地域連携が必要と思われます。医療情報のIT化も必要と思います。</p> <p>がん診療など</p> <p>がん診療に於いては厚労省はがん拠点病院ということで国民にたいしてがん対策をしております。拠点病院日本ワースト 30(診療内容の評価基準は手術件数などはいっている)の中に岩手県立病院が4病院が入っていました。久慈病院、宮古病院、などが入っています。つまりがん診療は沿岸地域ではむづかしいことです。2 人 1 人ががんにかかると言われてます。このような正しい情報を与えて選択は本人がするということになると思います。働き盛りの人口の減少は避けたいものです。</p> <p>2慢性期・高齢者について</p> <p>現在、高齢者の 7 割が病院で最後をむかえております。山田の場合も病院が当たり前と看護師の私も思っていました。今回の震災により、町の病院の機能が失われました。「病院はいやだ、家に帰りたい」とのぞんでいる方も少なくないと思います。そして、山田は状況が大きく変化しました。今後は在宅が主流になると思います。(国の政策も在宅を推進している。)</p> <p>チーム医療の推進</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 100px;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div style="margin-right: 10px;">訪問診療・・歯科診療なども</div> <div style="margin-right: 10px;">訪問看護</div> <div style="margin-right: 10px;">訪問リハ</div> <div style="margin-right: 10px;">薬剤指導など</div> <div style="font-size: 3em; margin-left: 10px;">}</div> </div> <p>看護師は健康状態(心身)、日常生活を把握(アセスメント)できます。住民の健康を守るために仮設などに訪問看護事業所を設置していくことが望まれます。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

番号	項目	意見
31	その他	<p>(前ページから)</p> <p>1 震災の語り部活動・体験した人の同意が必要ですが、被災した体験は語りついでいくことが大切です。今回は特に地震・津波・火災と自然の力の脅威を再認識したところ です。自然と共生することとはなど、実体験は聞く人々の心に響きます。例・・都内などで「出前講座」をする。私は台東区に住んでいます。山田町からの要請があれば小さなコミュニティを対象に企画・実施までお手伝いはできると思っています。メールできる環境にあります。ご連絡下さいませ。</p> <p>2 教育(人材育成)・・山田町は、地震・津波、火災を経験しております。このことをふまえて独自の災害教育が可能と思います。対象 小学校 中学校 高校など。このことを強みに事業展開できると思います。</p> <p>3 町民参加できるような町政を希望します。広報はいままで以上に住民参加型にしてほしいです。また、週刊誌にはがん治療のデータやその他、興味深いことが掲載しています。そのような事実を伝えてもいいのではないかと思います。</p> <p>4 復興計画のマネジメントをする。・・・研究会など設置。チェック機構が入る。</p> <p>【まとめ】 今回の大震災は豊かになりすぎた人間への警告と感じられます。そしてあまりにも大きな試練であります。先祖から受け継いだこの豊かな山田のなかで人々が安心して暮らしていけることができるといいと思っています。大きな予算・国・県などの支援を得ながら町づくりということになるわけですが町民の自立が優先されます。私の提案を読んでいただきありがとうございます。今後、私は山田の役にたちたいと考えております。また、被災しながら職員の方々も昼夜を問わず職務に当たられたことを思いますと頭が下がります。心から敬服します。最後に私は山田を出てから 14 年ほどになります。誤解などありましたら、訂正いたします。どうぞよろしく願います。</p> <p>東京での山田ふるさと会があったように思います。できれば連絡先が知りたいです。</p> <p>【文 献】 広田 純一 岩手大学農学部 被災地の状況と県および市町村の復興ビジョンについて 前田 一樹 岩手県下閉伊郡山田町に関する調査と環境未来都市設計案 山田町ホームページ 岩手県ホームページ 墨田区ホームページ 岩手日報など</p>

番号	項目	意見
32	土地利用案中 間報告と職業教育の充実	<p>暫定の間報告による土地利用案を拝見し、被災時の危険回避と、将来の高台移転計画にそった道路計画が、たりないと感じましたので、提案します。国道45号線は、津波被災後に通行不能となった経緯から、現在の海岸線ルートではまたいずれ被災、通行不能となる可能性が高く、脇路、もしくは副ルートを山側に設けておくべきと思います。大浦地区は観光目的も含め船越半島にトンネルを通し、大浦の中心地へとつながるアクセスをもうけ孤立を防ぐようにしてほしい。(国立公園等の問題は環境省と折衝すべき点)</p> <p>また地区によっては高台への移転が計画されていると思いますが居住地となる高台と高台をむすぶ、新設の道路が必須になり、豊間根⇒関口⇒長畑大畑地区⇒織笠地区⇒船越へと抜ける新道を作り、高台移転地区はそのルート沿いを重点に設置すべきかと。将来の開拓工事の搬入路としても利用でき、津波に限らず、山林火災、豪雪、大雨災害発生時などのために、緊急時の脱出ルートとして機能することが期待できるからです。検討願います。</p> <p>水産業を主産業にしてきた山田町ですが、あらたに新エネルギーを活用できる技術者を育てる環境を整え、将来のエネルギー転換時に活躍できる人材をそだてるために、山田高校にエンジニア育成の学科を新設し、三年間で太陽光、風力を主に扱う電設工事技師として情報処理もふくめた技術者を育てられる学校へ進化できるように、県に働きかけ普通科中心の学校からの転換を図る提言をしてほしい。また効率化をはかるため、社会人むけに2年制の新エネルギー技師育成技術専門校も併設して社会人教育をおこなえるようにし、不況につよい人材を育てられるよう、将来を見据えた町づくり、人づくりを未来の発展を目指しておこなって欲しい。</p> <p>元に戻すだけ、いままでの延長上の復旧をしてもまったく意味がありません。すでに津波前からこの町は、疲弊していました。</p> <p>食べ物で町おこしをするのは、いろいろな事実が明らかになれば、難しいことだということが明らかになってきます。お金をかけて、元の疲弊した町に戻すだけでは愚の骨頂です。役場職員、議員さんだけでは思いつかないアイデアをもち、提言したいプロの集団は沢山いますので、へんな便所掃除宗教団体を役場に入れて、素手でトイレ掃除するような、おかしいことをしていないで、まともな外部機関と相談して的確迅速、そして賄賂や談合、組合による馴れ合いに陥らない、公正な町を作りましょう。若い職員さんたちに期待しております。</p>